

## 第五回信州峰の原ダボス会議にて石川県の歴史・文化・観光について2時間講師として講演いたしました

氏名：篠原 淳 職業：会社員 都道府県：石川県

平成28年9月10日（土）14：00から長野県の須坂市 菅平高原（標高1500メートル）のペンション マジョリカにて 第五回信州峰の原ダボス会議にて石川県の歴史 文化 観光について講演させていただきました。



具体的な観光のソフト面の説明とインフラ整備による数値目標をお伝えし、持続的に効果のある観光戦略をお話しました。またアメリカカリフォルニアのナパバレーのワイナリーによる観光施策をご紹介しました。

北陸新幹線の開業効果とその意義、そして見えてきた課題を共有し改善を図ることをお伝えしました。最後は人材教育の重要性と地域、商品、施設を擬人化してお客様に何を訴えるかをお話しました。

お客様を知ること、想いを120%お伝えすること、驚きを用意することの大切さを話しました。

お客様にとって良い非常識なことも慣習化すれば常識になりあたりまえになることといしかわ観光特使を平成22年12月8日に委嘱されてからの活動やいしかわ観光特使の特色などもご紹介させていただきました。



# 観光は出迎え3歩、見送り7歩

石川県観光  
大使が講演

市民有志が「峰の原ダボス会議」



スイスの保護地ダボスに世界各国の指導者が集まり、意見交換するダボス会議にならって、須坂市峰の原高原に隣接する菅平高原にもダボスという地名があることから、須坂の活性化や将来のあり方を指して学び、語り合う「信州峰の原ダボス会議」の第5回会議がこのほど、峰の原高原のペンションマジョリカで開かれ、約20人が参加した。

平成24年に市民有志で結成、毎年9月に講師を招いた会議を実施している。冒頭、代表

の中野博勝さん（綿幸社長）が「須坂が誇る峰の原高原で有意義な時間を共有し、須坂のまちづくりについて皆で考えてみましょう」とあいさつ。続いて、

石川県の観光資源を全国にPRする「いしかわ観光大使」の篠原淳さん（金沢市）が「歴史文化資源を活かしたまちづくり」をテーマに講演した。写真。

篠原さんは加賀友神の製造販売などを営む兼六会丸六株式会社（長野市）に信越営業所。着物を中心としたまちあるきイベントを国内外で観光事業として展開し、NPO法人日本き

もの文化振興会副理事長、米国ハワイきものフェスティバルや金沢

城きもの園遊会の実行委員長なども務める。篠原さんは金沢のまちづくりや観光事業、自身の活動について、次のように話した。

石川県では松井秀喜さんと道場六三郎さんから著名人に観光大使をお願いし、私のような観光大使は全国に734人いる。

北陸新幹線の開通により、多くの方々に金沢においていただいている。お出迎えやおもてなしはますますだと思いが、お見送りはどうかと考えた。

観光事業は「出迎え3歩、見送り7歩」。お出迎えは誰でもきちんとするが、もっと大切なのはお見送り。どんな別れ方をするかで、ピーターになるかどうか決まるといっても過言ではない。石川ならではの「お見送り」は、ブランドになるのではないかと考えている。

ネットでの情報が速い時代。「あの石川のお見送りはすごいよ、クールだ」と情報が流れる。クールジャパンは我々日本人が言うことではなく、そう言われるように努力しなければならない。新幹線の車両が全てホームから離れるまで39秒、サンキュー、まさに「ありがとう」の39秒。お見送りは観光資源になると思う。

まちおこしは今あるものを組み合わせて生かす、おもてなしは人

が思っている以上のことをする。信州から金沢まで着物のバスツアーを実施しているが、参加者には一人5個ずつ使い捨てカイロを配り、バスの停車位置は着物の女性が降りやすい最善の場所を指示している。見ている人は見ている、何事にも緊張感を持って取り組みたい。

外国人の観光客も多いので、東京オリンピックも見据え、想像を超えるおもてなしを考えていきたい。

須坂にはたびたび訪れているが、外から見て雲の山を感じる。今あるものを上手に生かしてほしい。そして、須坂の色んな魅力を醸成してほしい。